

日本語の Academic Speaking の評価と  
Good Speaking の特徴  
Assessment of Academic speaking skill and  
characteristics of good speaking

畑佐由紀子(広島大学)

横山千聖(広島大学大学院)

# 1. はじめに



- ◆ 日本国内の留学生は10年間で倍増  
大学進学を目指す留学生も増加

日本語能力試験(JLPT) が進学時に参照されている

- ・・・読解・聴解の能力を測定 (Noguchi et al, 2008;  
門倉, 2005)

→漢字圏の学生が有利

「読み」はできるが、「話す」ことは難しい学生が増加

# 1. はじめに



- ・留学生の日本語能力の測定
- ・・・・発話能力が評価されていない

- ・スピーキング能力を測る評価指標は存在する
- ・アカデミック・スピーキング能力を測定する評価法はまだ開発されていないのが現状

## 2. 先行研究

- 他の指標との相違

テスト	開発者	対象者	特徴
JSST	ALC	会社員・研修生	自動音声電話、質疑応答
日本語会話検定	ジャパトーク	一般	試験官とのスカイプ会話
JF ロールプレイテスト	交流基金	一般	ロールプレイ・テキストを基にした評価
SJ-CAT	ドワンゴ & 大学	一般	文読み上げ、選択肢読み上げ、文生成、自由発話
JOPT	南山大学 その他	一般、アカデミック・ビジネス	15分の対面会話テスト アカデミックは①自分描写②事実説明・発表 ③意見述べ

# これまでのスピーキングテストを大学で使う際の課題

- テスト目的が不明瞭なものが多い
- 妥当性が検証されていないか、報告がない
- 評価基準が明確に示されていない。
- アカデミックなスピーキング能力を対象としたものは少ない。対象としていても、評価レベルに幅がありすぎて、プレースメントやアドミッションには使いにくい。

## 2. 先行研究

- ・ 発話の流暢さ、正確さ、複雑さ (Michel, 2017)

### 流暢さ

1. 語彙的流暢さ... 総語数 / 発話時間 (秒)
2. 発話の流暢さ... ポーズ時間 / 発話時間 (秒)  
(Bosker et al, 2012)

### 正確さ

正しい文法や語彙を使用している AS Unit / Total AS Unit

### 複雑さ

1. 語彙的複雑さ... 内容語の異なり語数 / 総語数
2. 発話の複雑さ... 総節数 / Total AS Unit

## 2. AS-Unit

### 発話の単位 (vs. T-Unit(文の単位))

- 発話者が発した主節(+従属節)または独立副節(+従属節) Cf. 副節: 談話や場面の文脈によって省略していた部分が復活できて完全な節になりうる句
- 等位関係にある場合は1 unitとして数える。
- 最初の動詞句が下降音調や上昇音調で区切られており、更にその音調の後に0.5秒以上のポーズがある場合には別のAS-unitとして区切る。
- 繰り返しは最後の部分のみ数える。
- 言い換えは、言い換える前が節なら1 unit、そうでない場合数えない。

## 2. 先行研究

機能的適切さ (Kuiken & Vedder, 2017;2018)

以下の4つの項目について6段階評価を実施

A. Content: information unit(アイデアの数)

例:「運動の重要性」について「肥満増加」、「心臓発作の危険性」など

B. Task requirement: テキストジャンルやスピーチアクトの達成度

C. Comprehensibility: 読み手によっての分かりやすさ

D. Coherence and cohesion: 一貫性の度合い



## 2. 本研究の目的

### ・アカデミック・スピーキング能力を測る評価法を開発

1. 評価の妥当性を発話の流暢さ、正確さ、複雑さ、機能的適切さ (Kuiken & Vedder, 2017;2018) を基に検証する



2. 評価が高い学習者、評価が低い学習者、日本語母語話者の発話の特徴を比較検討する

### 3. 調査対象者

対象者	母語	所属
母語話者 (NS) n=23	日本語	大学生 n=8 大学院生 n=15
学習者(ENS) n =20	英語	米国の日本語学校夏 期集中クラス n=20
学習者(CNS) n =20	中国語	日本国内の 学部生 n=2 交換留学生 n=3 研究生 n=7 大学院生 n=8

# 3. データ収集

## ◆ 基盤研究 (C)

「学部・留学生教育研究のためのアカデミック・ジャパニーズスピーキングコーパスの開発」の調査データ  
課題は2種類 (A,B) × 10パターン

- A 意見 (賛成か、反対か)
- B 意見 (どの程度賛成か)



発話を録音  
文字化し分析



# 3. 課題 (課題A)

課題文A (1～10)	
1	テクノロジーは私たちの生活を複雑にしたと思いますか、思いませんか。どうしてそう思いますか。
2	小学生や中学生は携帯やスマホを学校に持ってくるべきだと思いますか、思いませんか。どうしてそう思いますか。
3	人はいつも本当のことを言うべきだと思いますか、思いませんか。どうしてそう思いますか。
4	有名人や政治家は若い人のモデルになるよう行いに気を付けるべきだと思いますか、思いませんか。どうしてそう思いますか。
5	友達や家族とのコミュニケーションの方法として、手紙、メール、電話などがありますが、どの方法が一番良い方法だと思いますか。どうしてそう思いますか。
6	教育のレベルが高ければ高いほど、人生に成功すると思いますか、思いませんか。どうしてそう思いますか。
7	成功には「運」が必要だと思いますか、思いませんか。どうしてそう思いますか。
8	勉強は自分一人でするほうがいいですか、先生とやるほうがいいですか。どうしてそう思いますか。
9	人生において、頑張ることとリラックスすることと、どちらのほうがより大事だと思いますか。どうしてそう思いますか。
10	ホームレスはほとんどの社会にいます。ホームレスを助ける一番いい方法は、ホームレスの人にお金をあげることだと思いますか、思いませんか。どうしてそう思いますか。

# 3. 課題 (課題B)

課題文B (1~10)	
B1	国によっては大きいスーパーマーケットがふえて、町の小さい店で物が売れなくなつてつぶれてしまうことがあります。そして、小さい店が閉まってしまうと、町全体にもよくないという意見もあります。あなたはこの意見にどのていど賛成しますか。
B2	子どもにとってテレビを見るのは、時間のむだだという意見があります。あなたはこの意見にどのていど賛成しますか。
B3	最近、家族全員がスマホなどのテクノロジーを使うことが多くなりましたが、テクノロジーを使うのは、家族関係やコミュニケーションによくないという意見もあります。あなたはこの意見にどのていど賛成しますか。
B4	文化がちがう国に旅行に行った時は、その国の習慣にしたがった方がいいという意見があります。あなたはこの意見にどのていど賛成しますか。
B5	犯罪のほとんどの原因はびんぼうなことにあるという意見かあります。あなたはこの意見にどのていど賛成しますか。
B6	ファストフードは体によくありませんが、食べる人がふえています。この問題を解決するためには、ファストフードを禁止しなければならないという意見があります。あなたはこの意見にどのていど賛成しますか。
B7	国は、国民の生活を良くすることにお金を使うより、国をまもることにお金を使うべきだという意見があります。あなたはこの意見にどのていど賛成しますか。
B8	国は、病気を直すことにお金を使うより、病気にならないようにするためにお金を使った方がいいという意見があります。あなたはこの意見にどのていど賛成しますか。
B9	図書館は紙の本をたくさん買うのではなく、オンラインの資料をふやした方がいいという意見があります。あなたはこの意見にどのていど賛成しますか。
B10	小学校や中学校では全員に美術の授業を取らせた方がいいという意見があります。あなたはこの意見にどのていど賛成しますか。

# 3. 分析方法

1. CEFR (Council of Europe, 2001)、TOEFL iBT、IELTSを参考に評価基準(補助資料1)を作成し、評価者2名が評価基準をもとに評価



2. 発話の流暢さ、正確さ、複雑さ、機能的適切さの4項目と評価基準との関係を統計的に分析



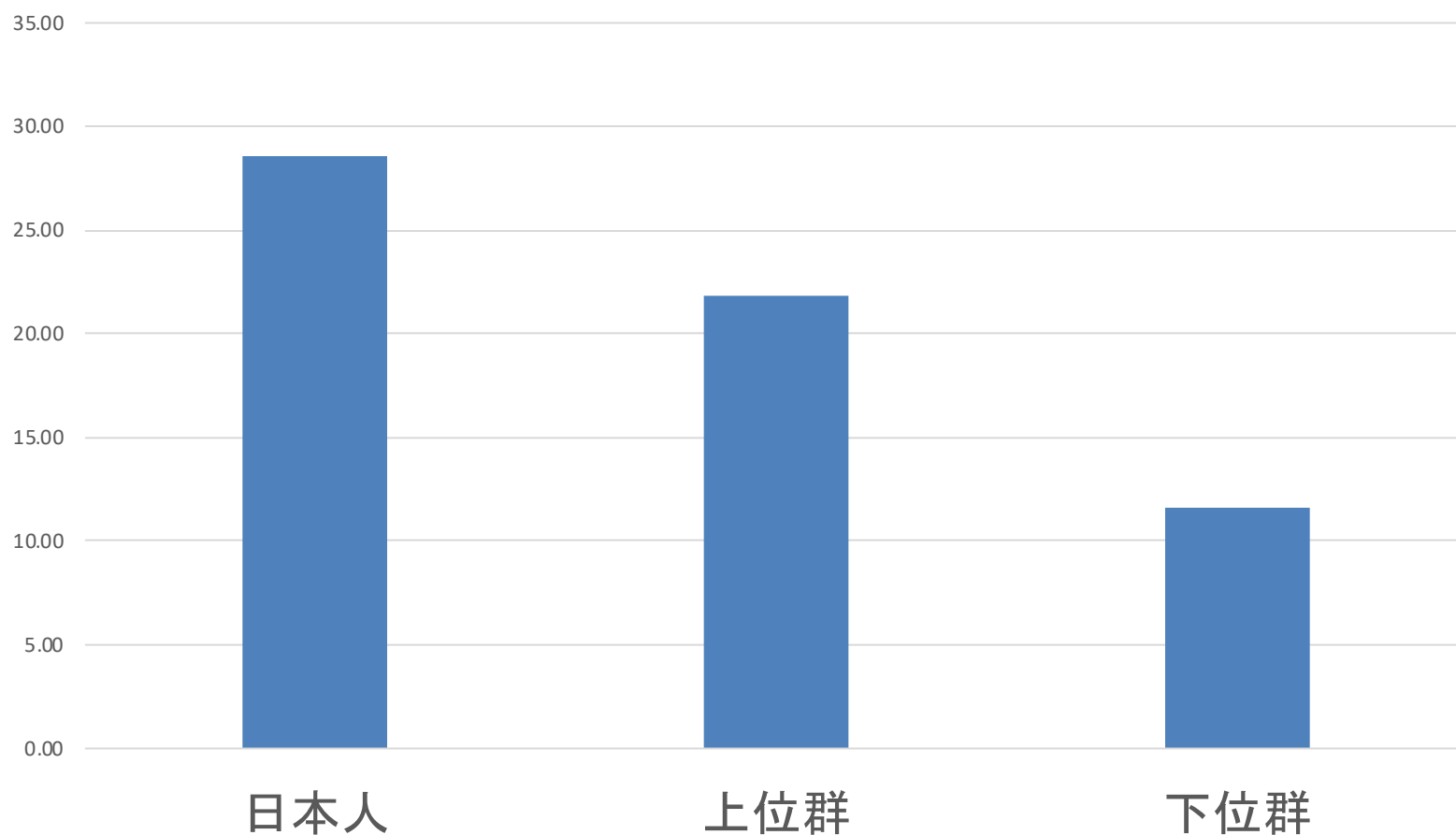
3. 結果から、評価の高い学習者、低い学習者、母語話者の質的特徴を分析

## 4-1. 結果(量的分析)

	評価結果	流暢さ (語彙)	流暢さ (ポーズ)	複雑さ (語彙)	複雑さ (発話)	正確さ	機能的 適切さ
評価結果	1						
流暢さ(語彙)	0.55	1					
流暢さ(ポーズ)	-0.49	-0.26	1				
複雑さ(語彙)	0.39	0.23	-0.13	1			
複雑さ(文法)	0.31	0.29	-0.22	0.16	1		
正確さ	0.74	0.35	-0.48	0.09	0.05	1	
機能的適切さ	0.86	0.43	-0.65	0.26	0.22	0.76	1

# 4-1. 結果(量的分析)

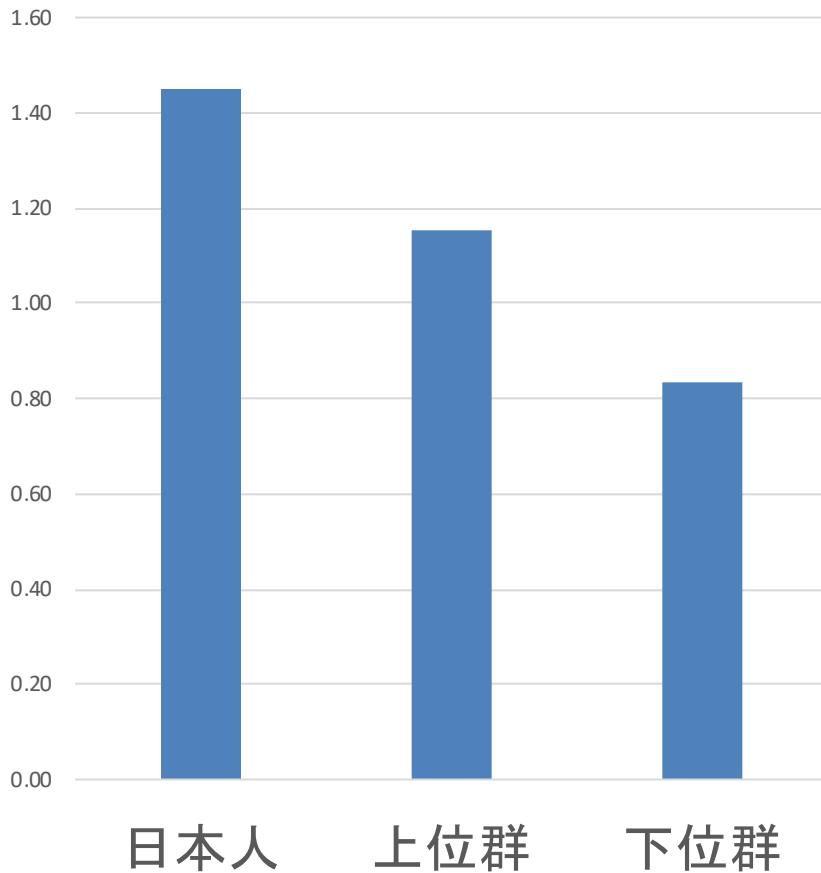
## 評価結果



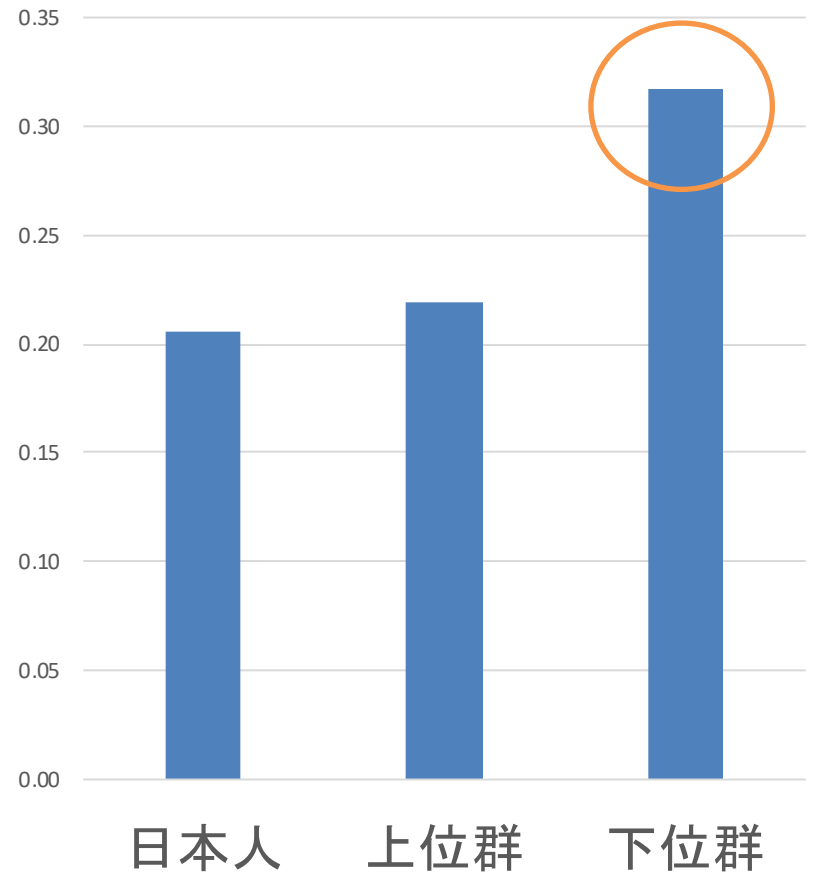


# 流暢さ

## 流暢さ(語彙)

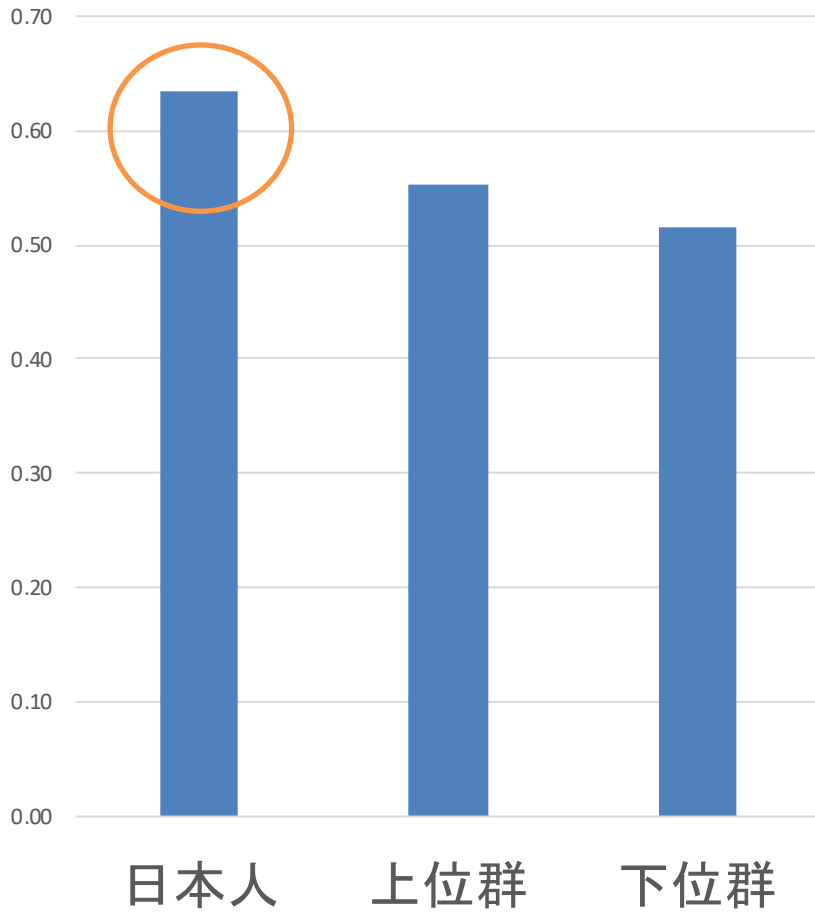


## 流暢さ(ポーズ回数)

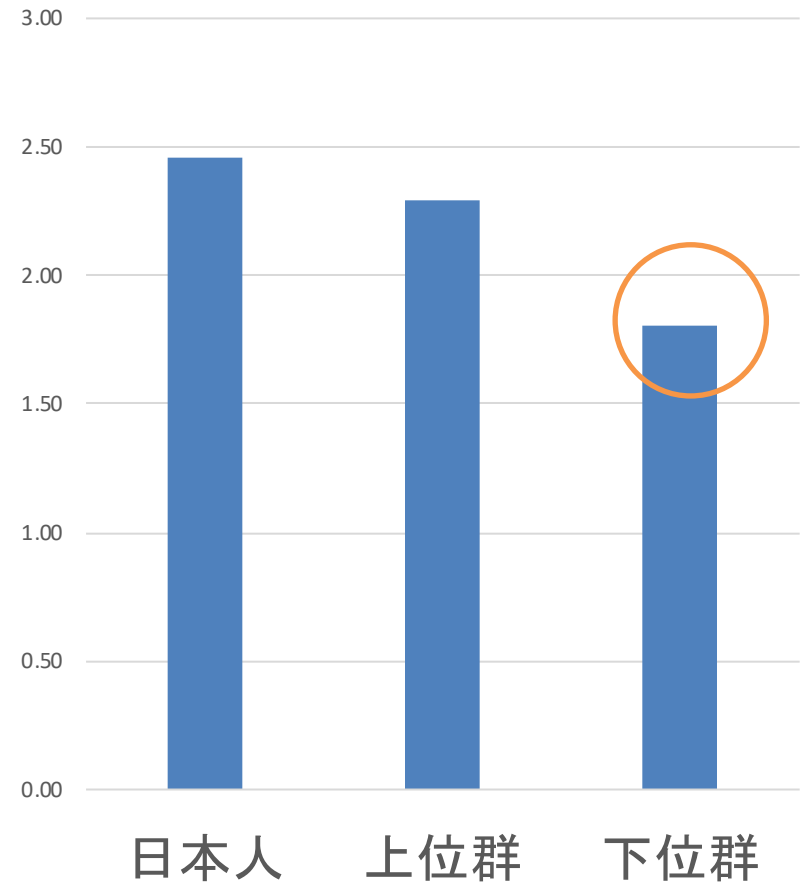


# 複雑さ

複雑さ(語彙)

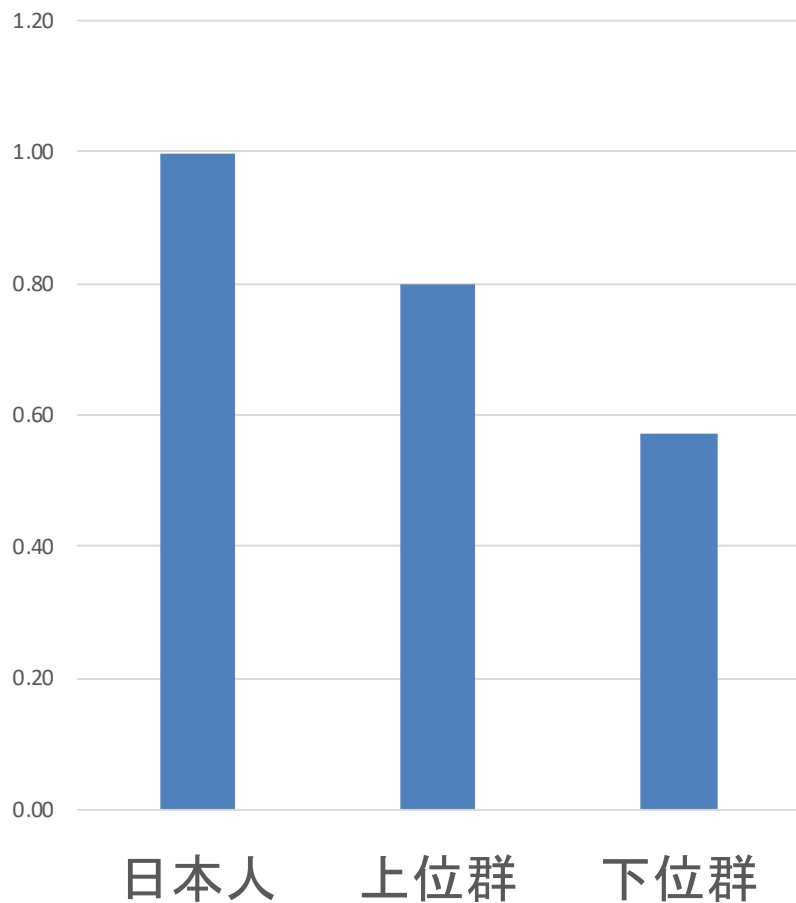


複雑さ(発話)

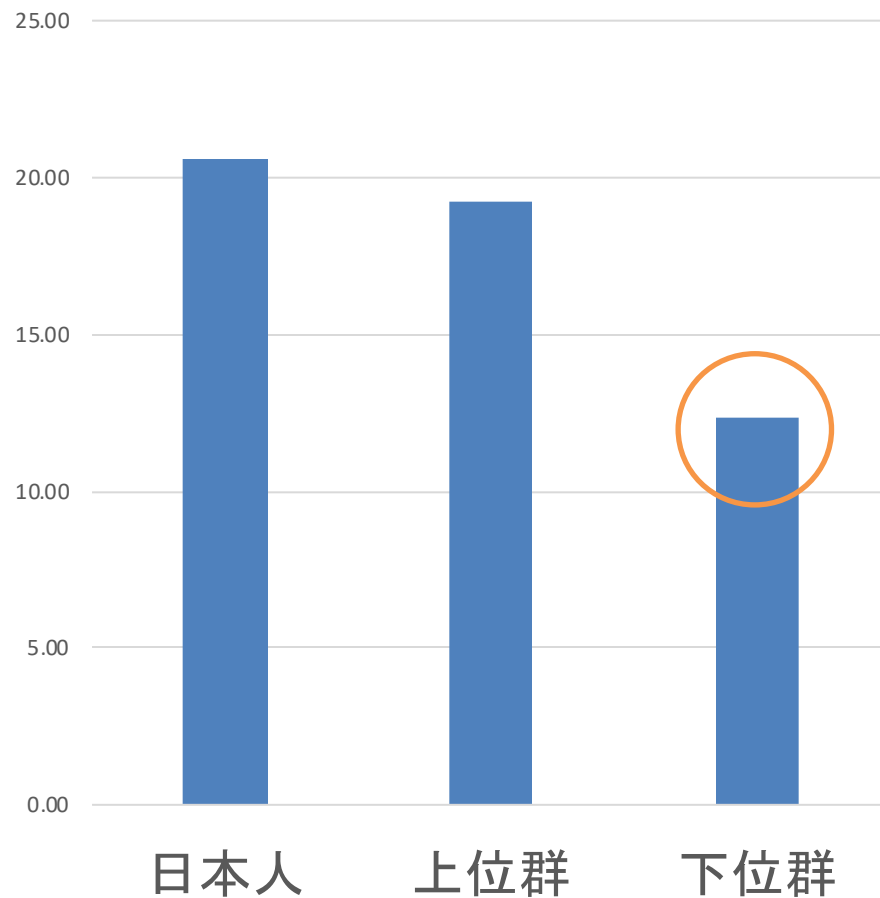


# 正確さ, 機能的妥当性

## 正確さ



## 機能的適切さ



## 4-2. 結果(質的分析)

・評価が高い学習者、低い学習者、母語話者各13名の発話について質的に分析



以下の使用について相違がみられた。

- 1、接続表現
- 2、複文の文型
- 3、文末表現
- 4、語彙の使用

## 4-2. 結果(質的分析)

### 1. 接続表現

#### 評価が高い学習者

・・・「なぜなら/なぜか」というと(理由)ので/だから」を用いる→「なぜか」と「ので」/「だから」を使用しない場合あり

#### 評価が低い学習者

・・・用いない/「それで・そして」、「だから」を用いる

母語話者・・・「なぜなら/理由は(理由)ので」を多用

## 4-2. 結果(質的分析)

### 1. 接続表現(例: 評価が高い学習者)

わたしはこの意見にあんまり賛成しないです。なぜかと言うと、確かに国を守る、国を守るためにえーと、武器などにお金を使う、お金を使うことが、大事ですが、国、しかし国は国民によって成り立ってられ、られるものなので、国民の生活、国民の生活を良くしない、しないと、国も、国も滅亡になってしまう可能性が高くなる、なると思います。だから私はこの意見にはあまり賛成し、しないです。

## 4-2. 結果(質的分析)

### 1. 接続表現(例: 評価が低い学習者)

僕は、政府はえっと、社会のためにもっとお金を使うべきと思います。えっと、たくさん人は、えっと母語、母語、母語が一番大切な、えっと、目的だと思います。でも僕にとって、たくさん問題は、せ、世界はもっと、世界はもっと、えっと、直し、世界を直したら、たくさん問題はあれはありません。それで社会のために、もっとお金を使えばいい、使えばいいと思います。えっと、例えば、はん、犯罪はたくさん犯罪は、えっと、犯罪の元、貧乏なことなので、そしてもっとお金は、えっと、社会のために使ったら、その問題は、ありません。そして政府はもっとお金を社会のためにもっとお金を使えば良いと思います。

## 4-2. 結果(質的分析)

### 2. 複文の文型

#### 評価が高い学習者

複文多い傾向...根拠を示す

例を説明

けど、ので

て形、体言止め

#### 評価が低い学習者

複文少ない...接続詞も複文も用いない場合多い

接続詞は「だから」「でも」を多用するなど誤用あり

#### 母語話者

複文多い ...評価が高い学習者と同様



## 4-2. 結果(質的分析)

### 2. 複文の文型(例:評価が高い学習者)

私はこの意見に賛成できません。今の経済、経済やネットの発展とともに人々の生活スピードも速くなりました。えーとオンライン、オンライン資料、今のほとんどは人々が、ほとんどの人々が、携帯を、携帯やパソコンを持っていて、オンライン資料は全部携帯やパソコンの中にダウンロードできます。えーと仕事、仕事の、仕事が忙しくて皆が、あの落ち着いて紙の本を読む時間も少なくなりました。図書館はせっかく落ち着いて、あの、紙の本を読む場所としていますのでやはりえーと、やはり図書館が、えーとえーと、人々に落ち着かせる場所としてやはり紙、紙の本を増やしたほうがいいと思います。

## 4-2. 結果(質的分析)

### 2. 複文の文型(例:評価が低い学習者)

あー、私は、先生と一緒に日本語、あー、勉強したいと思っています。だからこの、一人でとっても難しいですね、この、translationがありませんだから。先生に、質問があります、質問が、あったら、先生に、聞きます、あー、聞けます。でも、一人で聞きません。とっても難しいですね。あのあー、そうして、この一人で、あー、男の人、に、日本語で、話せません、でもこの、先生と一緒に、日本語で、えー、簡単会話話せます。でも、この一、あ、何度もなんども、何度も勉強したり、あー、とても難しい、あー、会話、を、話せます。だから、先生と一緒に、日本語で、日本語を勉強したいと思っています。

## 4-2. 結果(文末表現形式)

### 3. 文末表現

評価が高い学習者

…と思う、べきだと思う 多用

評価が低い学習者

…と思う 多用

母語話者

…かなと思う、のではないかと思う など  
と考える

## 4-2. 結果(質的分析)

### 4. 語彙の使用

評価が高い学習者

...漢語が多い

評価が低い学習者

...漢語多い人と少ない人に分かれる

漢語は初級の語彙の使用が多い

母語話者

...中級の語彙の使用が他より多い 漢語多い

## 4-2. 結果(質的分析)

### 4. 語彙の使用(例:評価が高い学習者)

教育のレベルが高ければ高いほど人生に成功するという考えについては私は納得できません。なぜかという、まずは、成功、何に達したら成功という基準は人によって異なります。普遍的な成功の基準がないので、それは、この分野で成功しなくても他の分野において成功するかもしれませんので、それは教育のレベルと関係がないのでは、ないと思います。まあまたは、あの一学力が高い人、つまり勉強に向いている人と向いてない人がいると思いますので、勉強に向いてない人は他のことをしても成功する可能性もあります。それで、教育のレベルと関係がないと思います。

## 4-2. 結果(質的分析)

### 4. 語彙の使用(例:評価が低い学習者)

教育のレベルが高ければ高いほど人生に成功するという考えについては私は納得できません。なぜかという、まずは、成功、何に達したら成功という基準は人によって異なります。普遍的な成功の基準がないので、それは、この分野で成功しなくても他の分野において成功するかもしれませんので、それは教育のレベルと関係がないのでは、ないと思います。まあまたは、あの一学力が高い人、つまり勉強に向いている人と向いてない人がいると思いますので、勉強に向いてない人は他のことをしても成功する可能性もあります。それで、教育のレベルと関係がないと思います。

## 4-2. 結果(質的分析)

### 4. 語彙の使用(例:評価が低い学習者)

有名な人は、いいモデルのようにするべきと思います。えっと、たくさん人は、たくさん子供はえっと、有名人にみあ、みあ、み、見てその声をコピーします。そして、たくさん、たくさん有名人は、あまりいいもモデルではない、ではなかったら、子供達は「そのことは大丈夫、そのことをするは大丈夫。」と思います。そして子供は、その大人は、大人は、悪い、悪いことを観察したら、それはとても悪い、悪いと思います。えっと、皆さんは一番大切なモラルがあります。そして、えっと、悪い、悪い行為をしたら、子供に悪い、悪いイメージを表せます。

## 5. 考察(量的分析)

1. 評価の妥当性を発話の流暢さ、正確さ、複雑さ、機能的適切さ(Kuiken & Vedder, 2017;2018)を基に検証する
  - 開発した評価基準は、CAFFAと中～高程度の相関があり、基準の妥当性は高いと言える。
  - CAFFAの語彙的複雑さと評価基準の相関が低いのは、CAFFAは量的側面のみを測り、低頻度語の使用など質的側面を反映できないためであると考えられ
  - 評価別の分析から、評価基準、CATTaのすべての指標において、下位、上位、母語話者が適切に区別されていた。特に、評価の高い学習者と低い学習者は流暢さにおいて成績が大きく異なることが分かった。次いで発話の複雑さに違いが見られた



## 5. 考察(質的分析)

2. 評価が高い学習者、評価が低い学習者、日本語母語話者の発話の特徴を比較検討する

接続や複文は論理構造に用いるものを使用しているかどうかで評価が左右される

- ・評価が低い理由: 同じ接続表現の多用/非用や複文を用いないと関係性が不明瞭



構成要素(主張、理由、反論)ごとに接続を明示的に用いることで、「今何を話しているか」が相手に伝わる

## 6. 今後の課題

1. 対象データを増やし、再分析する
2. 課題A,B別に特徴が異なるかどうかを量的に分析する
3. 語彙の相違について語彙・漢語の学術的使用頻度を探る